

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名 飛騨牛繁殖マイスター育成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 飛騨牛銘柄推進室 銘柄推進係 電話番号：058-272-1111(内2878)

E-mail：c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,300 千円 (前年度予算額：2,300 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,300	137	0	0	0	0	0	0	2,163
要求額	2,300	0	0	0	0	0	0	0	2,300
決定額	2,300	0	0	0	0	0	0	0	2,300

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

「飛騨牛生産の担い手育成」と「繁殖雌牛の増頭」を目的に、県内2か所で飛騨牛繁殖研修センターの整備を行い、研修事業を行っている。

そのうち、美濃加茂市の施設は、岐阜大学と全農岐阜、岐阜県の産官学が連携する全国初の肉用牛繁殖研修施設として、令和2年4月から研修を開始した。

県の役割となっている研修生の募集を継続し、研修の運営に係る経費の支出、令和4年3月には最初の研修修了生を輩出することから、就農支援の仕組みづくりなどが必要である。

(2) 事業内容

○研修生募集及び研修の運営

- ・ 募集チラシ作成やポスター掲載、就農相談会への出展等による研修生の募集活動
- ・ 研修に係る経費の助成及び研修コーディネートを実施

○就農支援

- ・ 新規就農の初期投資軽減につながるアパート牛舎・リース牛舎の建設や、空き牛舎のリフォーム等有効利活用方法について検討及び調整する。
- ・ 研修期間中の人脈づくり及び新規就農後の副収入として経営を支えるヘルパー制度の創設など、営農定着に向けた仕組みづくりを行う。
- ・ 研修生の就農から定着までを、地域支援協議会と連携し、畜産独自のJA他関係機関で支える支援指導体制を構築する。

(3) 県負担・補助率の考え方

研修生の募集や就農支援は県の担当業務である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	72	研修生選考会の報償費等
旅費	299	研修生募集、就農支援に係る旅費等
需用費	1,451	研修実施に必要な資材費、研修生募集活動に必要な資材費等
役務費	232	通信運搬費
使用料	31	高速道路使用料
負担金	215	研修生募集にかかる出展料
合計	2,300	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

令和2年度策定の「ぎふ農業・農村基本計画」では、飛騨牛生産を担う新たな担い手の育成が必要であり、飛騨牛繁殖研修センターにおいて研修生の就農支援、就農後のフォローアップをすることとしている。

(2) 国・他県の状況

「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（令和2年3月策定）」において肉用牛の生産基盤強化及び、国内牛肉需要、輸出拡大のため「繁殖雌牛増頭」を目指すこととしている。

(3) 後年度の財政負担

産官学連携事業であり、県の役割を担う部分についての経費負担が必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

研修生募集や就農支援は県の担当業務である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和2年度から開始した研修事業において、毎年2名の研修生を確保し、研修内容を充実させ、それぞれ2年後の新規就農につなげる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
① 研修生数	0	3	4	4	4	150%
②	/	/	/	/	/	/

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生の募集（就農フェア等への参加）（4回） ・研修生募集リーフレットの作成・配布 ・ホームページの作成やSNSの活用 ・アパート牛舎設立のための打合せ（2回） ・ヘルパー制度創設のための打合せ（1回） ・経営継承希望者と新規就農希望者とのマッチング制度やヘルパー制度の設立準備
	指標① 目標：2 実績：3 達成率：150%
令和3年度	/
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	/
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>飛騨牛生産の担い手確保と繁殖雌牛の増頭につなげるため、大学・全農・県の3者が連携し取り組んでおり、県は募集と就農支援を担当している。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>令和2年度に研修施設へ入所した研修生3名が令和4年度に県内へ就農する見込みである。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>大学・全農・県の3者連携はもちろん、農林事務所、市町村、地域農協、地域就農支援協議会、ぎふアグリチャレンジ支援センター等との連携により、担い手の育成に取り組む体制が構築されつつある。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修事業における経費の増加 ・ 研修修了後の就農先の確保策

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修生の募集は、毎年実施する。 ・ 研修修了後の就農先を確保し、営農定着のため、アパート牛舎の建設や空牛舎の利活用など、市町村や農協、生産者団体と連携して取り組む。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	